# 苅田町立図書館　新着推し本紹介のこーなー

## 12月の推し本

『家族のトリセツ』

黒川 伊保子 // 著　NHK出版　請求記号　367.3 /ｸ /　資料番号　610126534

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602388

【紹介文】今年はwithコロナで家で過ごす時間が増え、家族と過ごすのがストレスになるというニュースがテレビで流れていました。なぜイライラしてしまったり、相手を理解できないのか。家族といえども他人だから。でも欠点ばかり見てストレスをためるのはなんだかもったいない気がします。うまく付き合っていくための実践的方法を著者の経験を交えながら解説している本書には、少しばかり気持ちを楽にしてくれるヒントがあるような気がします。

『レスキューナースが教える新型コロナ×防災マニュアル』

辻 直美 // 著　扶桑社　請求記号　498.6 /ﾂ /　資料番号　610128498

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602908

【紹介文】ここ最近新型コロナウイルスの感染者が増えています。１年近くこのウイルスと向き合っていく中でどうしても気が抜けたり、油断してしまったりということがあると思います。改めて感染予防対策を見直してみませんか？本書では基本の対策から、職場・外出時の対策、家族が感染した時・災害が発生した時など様々な状況に応じた対策が書かれています。すべてを実践することはなかなか難しいですが、対策を徹底することで自分を守ることが出来ます。マスクの正しいつけ方など写真・解説付きで分かりやすい一冊になっています。

『音楽の肖像』

堀内 誠一 // 著 谷川 俊太郎 // 著　小学館　請求記号　762.8 /ﾎ /　資料番号　610128266

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602940

【紹介文】堀内誠一さんといえば『ぐるんぱのようちえん』、『こすずめのぼうけん』、『ちのはなし』など、たくさんの絵本や児童書の絵を描かれた方です。独特な画風と色使いは、記憶の底に残る印象深いものですが、1987年に病気のため54歳で早逝されました。堀内さんのエッセイと絵、谷川さんの詩を楽しめる新刊です。出版社は「宝物のような一冊」と表現しており、クラシックに興味のない方でも面白く読めます。堀内さん谷川さんという名コンビによるベストセラー『マザーグースのうた（第一集～第五集）』も読みたくなります。

『声が通らない!』

新保 信長 // 著　文藝春秋　請求記号　809.2 /ｼ /　資料番号　610128878

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603044

【紹介文】細野晴臣の声は店員を呼ぶのに向かない？追っかけで鍛えられたノド。鼻濁音を出せない現代人。ニュースキャスターの一分間にしゃべる文字数に変化？星野源は聞き取りやすい声？

この人いい声！って感じるのも人それぞれで定義するのは難しい。そもそも自分の声が嫌いという人が８割という謎の統計。共感しかない。著者の「声が通らない」という悩みから声にまつわるエピソードなど興味深いテーマがたくさん。ラジオ世代の声マニアならきっと面白いと思う一冊。

『シルバー川柳 10』

全国有料老人ホーム協会 // 編　ポプラ社　請求記号　911.4 /シ /　資料番号　610123903

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00601871

【紹介文】このシリーズは10巻目に到達。今までの帯には、桂歌丸師匠、加藤一二三さん、瀬戸内寂聴さんとシニア世代の方々の推薦を頂いています。川柳には、季語がなく、日常思ったことを五七五の句で詠んでいますが、投稿者の年齢は「シニア世代」。老いには勝てないけれども、夫婦のこと、孫のことで毎日楽しく暮らしている様子が伺えてきます。考えることで脳の活性にもなるといわれます。笑いは長寿の秘訣。この世代はやはり、元気なのでしょうね。

『またいつか歩きたい町』

森 まゆみ // 著　新潮社　請求記号　915.6 /モ /　資料番号　610127953

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602891

【紹介文】旅に出ると、少し懐かしくもあり、歩いているだけでほっとする町並みに出会うことがあります。昔はこんなの普通にあったなあ、とノスタルジックな気分に浸ったり。そこに行き交う人とのふれあいなど、今に生きる町並みを紹介した本。尾道や、内子、気仙沼や石見銀山。臼杵や八女など素敵な写真と共に旅気分。

『しでむし』（児童書・えほん）

舘野 鴻 // 作 絵　偕成社　請求記号　E /タ /　資料番号　620047282

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602444

【紹介文】えほんですが、ずかんのような本をしょうかいします。しでむしという虫をしっていますか？漢字で書くと死出虫と書くそうです。または、埋葬虫（まいそうむし）とよばれることもあるこの虫は、死んだ小さな動物をうまく肉だんごにして、そのうえで子育てをします。死んだものを土にかえして森を育ていのちを育んでいく、小さな虫がそんな仕事をしているのです。また、親虫が幼虫のためにスープを作ったりとめずらしい子育てもしているそうです。しでむしのいきかたもおもしろいのですが、絵がとてもこまかくていねいにかいてありうつくしい本になっています。

『クリスマスの小屋』（児童書・ものがたり）

ルース　ソーヤー // 再話　福音館書店　請求記号　993 /ク /　資料番号　620047829

https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00602602

【紹介文】アイルランドのむかしの妖精のおはなしです。いかけやのしごとをしながらたびする人々。その中でうまれたむすめオーナは、ある村の小屋のまえにおいて行かれてしまいます。うつくしくやさしいむすめになったオーナは、じぶんの家族といえがほしいとねがいます。けれども、そのねがいは、ずっとかないませんでした。いろいろな小屋（家）で人々の世話をしますが、オーナをかぞくとしてむかえてくれるひとはありません。クリスマスイブのよる、年おいたオーナにようせいたちがねがいをかなえてくれます。それは・・・。百年たった今でもクリスマスイブのよるには、オーナにあえるかもしれませんよ。

**問い合わせ先**
苅田町立図書館　☎093-436-0946
開館時間：9：30～17：30（木・金は19：00まで。本館のみ）
ホームページから蔵書検索もできます

（2020.12.8発行）